



# 国土交通大臣賞

**講評：** 築後57年で、まだ古民家と言うほどの古さはないが、戦後すぐに父が大変苦勞して建てた家であり、この家を大事に活かしたいと、施主が6年近く考え続けて到達したリフォームである。「暗い、寒い、不便の解消」が第一であり、「光と風と緑を取り入れること」、「できるだけ安く」が施主の注文であった。

2棟の建物に中途半端に挟まれていた庭を回廊式のオープンな渡り廊下でコの字型に囲んだ点が大きなポイントである。こうすることで、アプローチとしての門屋、奥を感じさせる母屋、それらをつなぐ中間の庭の位置付けが明確になり、庭をどこからでも眺められる、明るい住宅に変貌した。

現地審査は盛夏、居間のタイルに反射した百日紅の赤い花を観ながら行ったが、花々が美しく咲き乱れるであろう春秋や、積雪時にも再訪してみたいと思わせるだけの、力のある空間に仕上がっている。

耐震補強は、既存の木組みを活かしながら、新たな柱や添え柱、差鴨居を入れ、加えて構造用合板による補強を行っているが、新旧材の違和感はなく、自然な感じのデザインに仕上がっている。

1階はできるだけ床高を揃えてバリアフリー化し、リビングには床暖房を取入れたオール電化住宅とするなど、現代生活にも無理なく対応できている。

このリフォームは人にも恵まれている。設計者はこうした古民家の再生に地道に取り組んでおり、リフォームの特性を熟知していた。「百年もつ家造りまひよ」と言い切れる施工者もいた。経験が豊富な人たちに巡り会ったことがこの家の再生とその価値を決定付けたといっても過言ではない。

この家には成人した2人の子供がいるが、リフォーム後の家に暮らして、新たに魅力を感じ、強い愛着を持ち始めているとのことである。リフォームによって生じた彼らの心の中のさざ波こそ、サステナビリティの源であるように思われ、今後も百年単位で生き抜いてほしいこの建物にも期待が持てるのである。

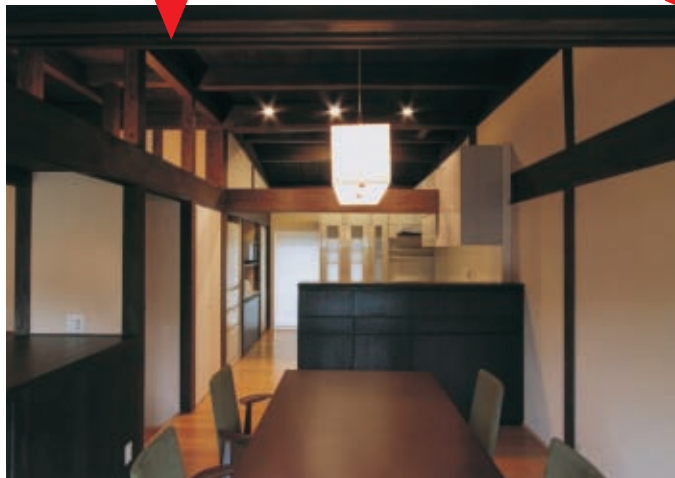
本住宅、およびこのような作品にまともあげた施主・設計者・施工者の努力は国土交通大臣賞に十分ふさわしいものと評価した。



リフォーム前後の写真



リフォーム前の和室6帖を南面より見る。 リフォーム前の和室6帖を北面より見る。



同上の和室をダイニング・キッチンに変更。



庭を眺めながらの食事のできるダイニングルーム。



料理をしながら庭を眺めることができるキッチン。



リフォーム前の玄関・ホール・洋室の壁を撤去し、リビングルームに。補強のために柱・差し鴨居等を新しく入れています。



庭を眺めながらの浴室。 段差のない浴室入口回り。 リビングより門屋を見る。木製建具は全開できる。



庭を囲むように、手前が門屋、右に吹きさらしの渡り廊下、奥が母屋。



吹きさらしの渡り廊下、左に母屋が見える。



玄関に入って右側が洋室、左側に庭を見て吹きさらしの渡り廊下へと進む。

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想 など

クライアントのご要望は、受継いだ家の良いところは残し、家族が毎日心地よく生活できる空間を希望されていました。計画は、家人に大切に見守られてきた「庭」を中心に門屋と母屋を、季節感を肌で感じることができる「吹きさらしの渡り廊下」で繋ぐことで「庭」を切り取り、今まで気付かなかった庭本来の良さを導き出すことから平面計画をしました。構造に関しては、新たにベタ基礎の上に柱を増設し、既設柱・梁と金物で締結しています。リビングルームでは、差し鴨居も新たに設けています。設備は、木造木組現し工法のために、オー

特に配慮した住宅性能：

ル電化として火災への安全性に対処しています。又、空間が大きいためリビングルームは床暖房としています。意匠的には既設の木組みを生かし、木の持つ温かさと珪藻土・漆喰壁で構成し、「庭」自然を最大限感じられるように、木製建具を全開できるようにしています。クライアントの感想は、自然の移ろいの中で心地よく生活ができるようになりました。

データ		構造／築後年数		在来木		造／		50		年	
所在地	大阪府堺市	構造／築後年数		在来木		造／		50		年	
該当工事面積	184.5	該当部分工事費		3,000		万円					
居住者構成	3	人 (大人 <15歳以上)	3	人	子供						
設計者	平井憲一建築事務所	担当者		平井		憲一					
施工者	(株)日の出組	担当者		東村		明良					

リフォーム前

リフォーム後

